

府内原子力事業所の

「平成 **30** 年度放射線管理等報告書」

目 次

1. 京都大学複合原子力科学研究所

「平成 30 年度上半期放射線管理等報告書」	・ ・ ・ ・ ・	1
「平成 30 年度下半期放射線管理等報告書」	・ ・ ・ ・ ・	5

2. 近畿大学原子力研究所

「平成 30 年度上半期放射線管理等報告書」	・ ・ ・ ・ ・	9
「平成 30 年度下半期放射線管理等報告書」	・ ・ ・ ・ ・	11

3. 原子燃料工業株式会社熊取事業所

「平成 30 年度上半期放射線管理等報告書」	・ ・ ・ ・ ・	13
「平成 30 年度下半期放射線管理等報告書」	・ ・ ・ ・ ・	16

平成30年度上半期放射線管理等報告書

30京大施環化第161号

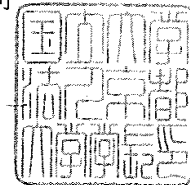
平成30年10月29日

原子力規制委員会 殿

京都府京都市左京区吉田本町

国立大学法人京都大学

学 長 山 極 壽



核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律第67条第1項及び試験研究の用に供する原子炉等の設置、運転等に関する規則第18条第1項により次のとおり報告します。

工場又は事業所	名 称	京都大学複合原子力科学研究所
	所 在 地	大阪府泉南郡熊取町朝代西2丁目1010番地
事務上の連絡先	名 称	
	所 在 地	
	連絡員の氏名	

1. 放射性物質の濃度の3月間についての平均値及び最高値

測定の箇所			前半の3月間(平成30年4月~6月)		後半の3月間(平成30年7月~9月)	
			平均値	最高値	平均値	最高値
排気口又は排気監視設備	KURスタック揮発性物質	^{131}I	$<7.0 \times 10^{-6} \text{ Bq/cm}^3$	同左	$<7.0 \times 10^{-6} \text{ Bq/cm}^3$	同左
	同上	^{133}I	$<7.0 \times 10^{-6} \text{ Bq/cm}^3$	同左	$<7.0 \times 10^{-6} \text{ Bq/cm}^3$	同左
	同上	^3H	$<4.0 \times 10^{-5} \text{ Bq/cm}^3$	同左	$<4.0 \times 10^{-5} \text{ Bq/cm}^3$	同左
	KURスタック粒子状 γ 放出核種	^{54}Mn	$<4.0 \times 10^{-9} \text{ Bq/cm}^3$	同左	$<4.0 \times 10^{-9} \text{ Bq/cm}^3$	同左
	同上	^{60}Co	$<4.0 \times 10^{-9} \text{ Bq/cm}^3$	同左	$<4.0 \times 10^{-9} \text{ Bq/cm}^3$	同左
	同上	^{137}Cs	$<4.0 \times 10^{-9} \text{ Bq/cm}^3$	同左	$<4.0 \times 10^{-9} \text{ Bq/cm}^3$	同左
	同上	その他の γ 線放出核種	$<4.0 \times 10^{-9} \text{ Bq/cm}^3$	同左	$<4.0 \times 10^{-9} \text{ Bq/cm}^3$	同左
	KURスタック全 α 放射能	全 α	$<6.8 \times 10^{-10} \text{ Bq/cm}^3$	同左	$<4.0 \times 10^{-10} \text{ Bq/cm}^3$	同左
	KURスタック全 β 放射能	全 β	$<4.0 \times 10^{-9} \text{ Bq/cm}^3$	同左	$<4.0 \times 10^{-9} \text{ Bq/cm}^3$	同左
	KURスタック※気体状放出核種	^{41}Ar	$<2.0 \times 10^{-3} \text{ Bq/cm}^3$	同左	$<2.0 \times 10^{-3} \text{ Bq/cm}^3$	同左
	KUCAスタック揮発性物質	^{131}I	$<7.0 \times 10^{-6} \text{ Bq/cm}^3$	同左	$<7.0 \times 10^{-6} \text{ Bq/cm}^3$	同左
	同上	^{133}I	$<7.0 \times 10^{-6} \text{ Bq/cm}^3$	同左	$<7.0 \times 10^{-6} \text{ Bq/cm}^3$	同左
	同上	^3H	$<4.0 \times 10^{-5} \text{ Bq/cm}^3$	同左	$<4.0 \times 10^{-5} \text{ Bq/cm}^3$	同左
	KUCAスタック粒子状 γ 放出核種	^{54}Mn	$<4.0 \times 10^{-9} \text{ Bq/cm}^3$	同左	$<4.0 \times 10^{-9} \text{ Bq/cm}^3$	同左
	同上	^{60}Co	$<4.0 \times 10^{-9} \text{ Bq/cm}^3$	同左	$<4.0 \times 10^{-9} \text{ Bq/cm}^3$	同左
	同上	^{137}Cs	$<4.0 \times 10^{-9} \text{ Bq/cm}^3$	同左	$<4.0 \times 10^{-9} \text{ Bq/cm}^3$	同左
	同上	その他の γ 線放出核種	$<4.0 \times 10^{-9} \text{ Bq/cm}^3$	同左	$<4.0 \times 10^{-9} \text{ Bq/cm}^3$	同左
	KUCAスタック全 α 放射能	全 α	$<4.0 \times 10^{-10} \text{ Bq/cm}^3$	同左	$<4.0 \times 10^{-10} \text{ Bq/cm}^3$	同左
	KUCAスタック全 β 放射能	全 β	$<4.0 \times 10^{-9} \text{ Bq/cm}^3$	同左	$<4.0 \times 10^{-9} \text{ Bq/cm}^3$	同左
	KUCAスタック※気体状放出核種	^{41}Ar	$<1.3 \times 10^{-3} \text{ Bq/cm}^3$	同左	$<1.3 \times 10^{-3} \text{ Bq/cm}^3$	同左
排水口又は排水監視設備	放射性廃棄物処理場監視貯留槽	^3H	$1.4 \times 10^0 \text{ Bq/cm}^3$	$7.5 \times 10^0 \text{ Bq/cm}^3$	$<2.0 \times 10^{-1} \text{ Bq/cm}^3$	同左
	同上	^{51}Cr	$<7.0 \times 10^{-2} \text{ Bq/cm}^3$	同左	$<7.0 \times 10^{-2} \text{ Bq/cm}^3$	同左
	同上	^{54}Mn	$<1.0 \times 10^{-2} \text{ Bq/cm}^3$	同左	$<1.0 \times 10^{-2} \text{ Bq/cm}^3$	同左
	同上	^{59}Fe	$<2.0 \times 10^{-2} \text{ Bq/cm}^3$	同左	$<2.0 \times 10^{-2} \text{ Bq/cm}^3$	同左
	同上	^{58}Co	$<1.0 \times 10^{-2} \text{ Bq/cm}^3$	同左	$<1.0 \times 10^{-2} \text{ Bq/cm}^3$	同左
	同上	^{60}Co	$<1.0 \times 10^{-2} \text{ Bq/cm}^3$	同左	$<1.0 \times 10^{-2} \text{ Bq/cm}^3$	同左
	同上	^{131}I	$<1.0 \times 10^{-2} \text{ Bq/cm}^3$	同左	$<1.0 \times 10^{-2} \text{ Bq/cm}^3$	同左
	同上	^{134}Cs	$<1.0 \times 10^{-2} \text{ Bq/cm}^3$	同左	$<1.0 \times 10^{-2} \text{ Bq/cm}^3$	同左
	同上	^{137}Cs	$<1.0 \times 10^{-2} \text{ Bq/cm}^3$	同左	$<1.0 \times 10^{-2} \text{ Bq/cm}^3$	同左
	同上	その他の γ 線放出核種	—	—	—	—
	同上	全 α 放射能	$<3.7 \times 10^{-4} \text{ Bq/cm}^3$	同左	$<3.7 \times 10^{-4} \text{ Bq/cm}^3$	同左
	同上※※	全 β γ 放射能	$<1.9 \times 10^{-3} \text{ Bq/cm}^3$	同左	$<1.9 \times 10^{-3} \text{ Bq/cm}^3$	同左

※周辺監視区域以外においては、濃度限度以下であると評価される。その計算方法及び結果は別添1に示す。
 ※※排水中の全 β γ 放射能はGM検出器で測定しており、測定値に μBq は含まれない。

2. 放射線業務従事者の1年間の線量分布（4月30日までに提出すべき報告書に限り記載すること。）

1年間の線量 (mSv)	5以下	5を超え 15以下	15を超え 20以下	20を超え 25以下	25を超え 50以下	50を超え るもの	合 計
放射線業務従事者 (人)							

3. 女子（妊娠不能と診断された者及び妊娠の意志のない旨を原子炉設置者に書面で申し出た者を除く。）の放射線業務従事者の3月間の線量分布

3月間の線量 (mSv)		1以下	1を超え 2以下	2を超え 5以下	5を超え るもの	計
放射線業務 従事者数 (人)	前半の3月間 (4月~6月)	18	0	0	0	18
	後半の3月間 (7月~9月)	18	0	0	0	18

4. 原子炉の運転時間及び熱出力

〔原子炉の名称：京都大学研究用原子炉（KUR）〕

月 別	項 目	運転時間 (h)	熱 出 力	
			平均 (kW)	最大 (kW)
4 月		0	—	—
5 月		0	—	—
6 月		0	—	—
7 月		6.95	0.020	0.020
8 月		124.60	1599.584	5000.000
9 月		111.85	1640.769	5000.000
合 計		243.40	1572.836	5000.000

〔原子炉の名称：京都大学臨界集合体実験装置（KUCA）〕

月 別	項 目	運転時間 (h)	熱 出 力	
			平均 (kW)	最大 (kW)
4 月		35	0.001未満	0.001未満
5 月		0	—	—
6 月		25	0.001未満	0.001未満
7 月		85	0.001未満	0.001
8 月		72	0.001未満	0.001未満
9 月		71	0.001未満	0.001未満
合 計		288	0.001未満	0.001

別添 1

周辺監視区域以遠における空气中濃度評価方法

1. 放射性気体廃棄物の放出率は、当該の3月間における総放出量をその期間内の総放出時間数で除した値を用いた。
2. 放射性気体廃棄物の大気拡散計算は、「発電用原子炉施設の安全解析に関する気象指針」に従った。
3. 放射性気体廃棄物の排気の高さは、KUR排気口のスタックの実高長である35mを用いた。
4. 着目地点の平均濃度は風向が1方位内で一様に変動するとして計算した。
5. 当該の3月間についての風向別の風速逆数総和は、放出が行われた時間について求め、3月間の平均濃度算出の基礎的パラメータとした。
6. 大気安定度は、各風向につき、KUR排気口のスタックの風下方向の周辺監視区域以遠で空气中濃度が最も大きくなるようなものを用いた。
7. 以上の要領で、スタックからの方位毎に3月間についての平均の空气中濃度を計算した。
8. 周辺監視区域以遠における3月間についての平均濃度は、各方位について計算された濃度の内最大のものを用いた。

以上により計算した ^{41}Ar 3月間平均濃度は、以下のとおりとなる。

平成30年 4月から6月 研究炉停止中のため算定値なし

平成30年 7月から9月 $9.1 \times 10^{-8} \text{ Bq/cm}^3$ スタックの西北西 (190m)

尚、KUCAについては、スタック気体状放出核種が検出限界未満であり、算定値はない。

平成30年度下半期放射線管理等報告書

19京大施環化第20号

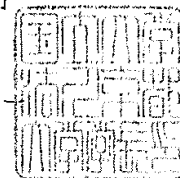
平成31年 4月24日

原子力規制委員会 殿

京都府京都市左京区吉田本町

国立大学法人京都大学

学 長 山 極 壽



核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律第67条第1項及び試験研究の用に供する原子炉等の設置、運転等に関する規則第18条第1項により次のとおり報告します。

工場又は事業所	名 称	京都大学複合原子力科学研究所
	所 在 地	大阪府泉南郡熊取町朝代西2丁目1010番地
事務上の連絡先	名 称	[Redacted]
	所 在 地	
	連絡員の氏名	

1. 放射性物質の濃度の3月間についての平均値及び最高値

測定の箇所			前半の3月間(平成30年10月~12月)		後半の3月間(平成31年1月~3月)	
			平均値	最高値	平均値	最高値
排気口又は排気監視設備	KURスタック揮発性物質	^{131}I	$<7.0 \times 10^{-9} \text{ Bq/cm}^3$	同左	$<7.0 \times 10^{-9} \text{ Bq/cm}^3$	同左
	同上	^{133}I	$<7.0 \times 10^{-8} \text{ Bq/cm}^3$	同左	$<7.0 \times 10^{-8} \text{ Bq/cm}^3$	同左
	同上	^3H	$<4.0 \times 10^{-5} \text{ Bq/cm}^3$	同左	$<4.0 \times 10^{-5} \text{ Bq/cm}^3$	同左
	KURスタック粒子状 γ 放出核種	^{54}Mn	$<4.0 \times 10^{-9} \text{ Bq/cm}^3$	同左	$<4.0 \times 10^{-9} \text{ Bq/cm}^3$	同左
	同上	^{60}Co	$<4.0 \times 10^{-9} \text{ Bq/cm}^3$	同左	$<4.0 \times 10^{-9} \text{ Bq/cm}^3$	同左
	同上	^{137}Cs	$<4.0 \times 10^{-9} \text{ Bq/cm}^3$	同左	$<4.0 \times 10^{-9} \text{ Bq/cm}^3$	同左
	同上	その他の γ 線放出核種	$<4.0 \times 10^{-9} \text{ Bq/cm}^3$	同左	$<4.0 \times 10^{-9} \text{ Bq/cm}^3$	同左
	KURスタック全 α 放射能	全 α	$<4.0 \times 10^{-10} \text{ Bq/cm}^3$	同左	$<4.0 \times 10^{-10} \text{ Bq/cm}^3$	同左
	KURスタック全 β 放射能	全 β	$<4.0 \times 10^{-9} \text{ Bq/cm}^3$	同左	$<4.0 \times 10^{-9} \text{ Bq/cm}^3$	同左
	KURスタック※気体状放出核種	^{41}Ar	$<2.0 \times 10^{-3} \text{ Bq/cm}^3$	同左	$<2.0 \times 10^{-3} \text{ Bq/cm}^3$	$2.3 \times 10^{-3} \text{ Bq/cm}^3$
	KUCAスタック揮発性物質	^{131}I	$<7.0 \times 10^{-9} \text{ Bq/cm}^3$	同左	$<7.0 \times 10^{-9} \text{ Bq/cm}^3$	同左
	同上	^{133}I	$<7.0 \times 10^{-8} \text{ Bq/cm}^3$	同左	$<7.0 \times 10^{-8} \text{ Bq/cm}^3$	同左
	同上	^3H	$<4.0 \times 10^{-5} \text{ Bq/cm}^3$	同左	$<4.0 \times 10^{-5} \text{ Bq/cm}^3$	同左
	KUCAスタック粒子状 γ 放出核種	^{54}Mn	$<4.0 \times 10^{-9} \text{ Bq/cm}^3$	同左	$<4.0 \times 10^{-9} \text{ Bq/cm}^3$	同左
	同上	^{60}Co	$<4.0 \times 10^{-9} \text{ Bq/cm}^3$	同左	$<4.0 \times 10^{-9} \text{ Bq/cm}^3$	同左
	同上	^{137}Cs	$<4.0 \times 10^{-9} \text{ Bq/cm}^3$	同左	$<4.0 \times 10^{-9} \text{ Bq/cm}^3$	同左
	同上	その他の γ 線放出核種	$<4.0 \times 10^{-9} \text{ Bq/cm}^3$	同左	$<4.0 \times 10^{-9} \text{ Bq/cm}^3$	同左
	KUCAスタック全 α 放射能	全 α	$<4.0 \times 10^{-10} \text{ Bq/cm}^3$	同左	$<4.0 \times 10^{-10} \text{ Bq/cm}^3$	同左
	KUCAスタック全 β 放射能	全 β	$<4.0 \times 10^{-9} \text{ Bq/cm}^3$	同左	$<4.0 \times 10^{-9} \text{ Bq/cm}^3$	同左
	KUCAスタック※気体状放出核種	^{41}Ar	$<1.3 \times 10^{-2} \text{ Bq/cm}^3$	同左	$<1.3 \times 10^{-2} \text{ Bq/cm}^3$	同左
排水口又は排水監視設備	放射性廃棄物処理場監視貯留槽	^3H	$9.6 \times 10^{-1} \text{ Bq/cm}^3$	$1.5 \times 10^0 \text{ Bq/cm}^3$	$4.0 \times 10^{-1} \text{ Bq/cm}^3$	同左
	同上	^{51}Cr	$<7.0 \times 10^{-2} \text{ Bq/cm}^3$	同左	$<7.0 \times 10^{-2} \text{ Bq/cm}^3$	同左
	同上	^{54}Mn	$<1.0 \times 10^{-2} \text{ Bq/cm}^3$	同左	$<1.0 \times 10^{-2} \text{ Bq/cm}^3$	同左
	同上	^{59}Fe	$<2.0 \times 10^{-2} \text{ Bq/cm}^3$	同左	$<2.0 \times 10^{-2} \text{ Bq/cm}^3$	同左
	同上	^{58}Co	$<1.0 \times 10^{-2} \text{ Bq/cm}^3$	同左	$<1.0 \times 10^{-2} \text{ Bq/cm}^3$	同左
	同上	^{60}Co	$<1.0 \times 10^{-2} \text{ Bq/cm}^3$	同左	$<1.0 \times 10^{-2} \text{ Bq/cm}^3$	同左
	同上	^{131}I	$<1.0 \times 10^{-2} \text{ Bq/cm}^3$	同左	$<1.0 \times 10^{-2} \text{ Bq/cm}^3$	同左
	同上	^{134}Cs	$<1.0 \times 10^{-2} \text{ Bq/cm}^3$	同左	$<1.0 \times 10^{-2} \text{ Bq/cm}^3$	同左
	同上	^{137}Cs	$<1.0 \times 10^{-2} \text{ Bq/cm}^3$	同左	$<1.0 \times 10^{-2} \text{ Bq/cm}^3$	同左
	同上	その他の γ 線放出核種	—	—	—	—
	同上	全 α 放射能	$<3.7 \times 10^{-4} \text{ Bq/cm}^3$	同左	$<3.7 \times 10^{-4} \text{ Bq/cm}^3$	同左
	同上※※	全 β γ 放射能	$<1.9 \times 10^{-3} \text{ Bq/cm}^3$	同左	$<1.9 \times 10^{-3} \text{ Bq/cm}^3$	同左

※周辺監視区域以外においては、濃度限度以下であると評価される。その計算方法及び結果は別添1に示す。
 ※※排水中の全 β γ 放射能はGM検出器で測定しており、測定値に ^3H は含まれない。

2. 放射線業務従事者の1年間の線量分布（4月30日までに提出すべき報告書に限り記載すること。）

1年間の線量 (mSv)	5以下	5を超え 15以下	15を超え 20以下	20を超え 25以下	25を超え 50以下	50を超え るもの	合計
放射線業務従事者 (人)	567	0	0	0	0	0	567

3. 女子（妊娠不能と診断された者及び妊娠の意志のない旨を原子炉設置者に書面で申し出た者を除く。）の放射線業務従事者の3月間の線量分布

3月間の線量 (mSv)		1以下	1を超え 2以下	2を超え 5以下	5を超え るもの	計
放射線業務 従事者数 (人)	前半の3月間 (10月~12月)	27	0	0	0	27
	後半の3月間 (1月~3月)	23	0	0	0	23

4. 原子炉の運転時間及び熱出力

〔原子炉の名称：京都大学研究用原子炉（KUR）〕

月 別	項 目	運転時間 (h)	熱 出 力	
			平均 (kW)	最大 (kW)
10月		145.33	1629.361	5000.00
11月		158.83	1455.267	5000.00
12月		113.24	1664.783	5000.00
1月		135.91	1522.868	5000.00
2月		12.23	4775.144	5000.00
3月		0	—	—
合計		565.54	1629.996	5000.00

〔原子炉の名称：京都大学臨界集合体実験装置（KUCA）〕

月 別	項 目	運転時間 (h)	熱 出 力	
			平均 (kW)	最大 (kW)
10月		116	0.001未満	0.001未満
11月		129	0.001未満	0.001未満
12月		98	0.001未満	0.001未満
1月		71	0.001未満	0.001未満
2月		94	0.001未満	0.001未満
3月		0	—	—
合計		508	0.001未満	0.001未満

周辺監視区域以遠における空气中濃度評価方法

1. 放射性気体廃棄物の放出率は、当該の3月間における総放出量をその期間内の総放出時間数で除した値を用いた。
2. 放射性気体廃棄物の大気拡散計算は、「発電用原子炉施設の安全解析に関する気象指針」に従った。
3. 放射性気体廃棄物の排気の高さは、KUR排気口のスタックの実高長である35mを用いた。
4. 着目地点の平均濃度は風向が1方位内で一様に変動するとして計算した。
5. 当該の3月間についての風向別の風速逆数総和は、放出が行われた時間について求め、3月間の平均濃度算出の基礎的パラメータとした。
6. 大気安定度は、各風向につき、KUR排気口のスタックの風下方向の周辺監視区域以遠で空气中濃度が最も大きくなるようなものを用いた。
7. 以上の要領で、スタックからの方位毎に3月間についての平均の空气中濃度を計算した。
8. 周辺監視区域以遠における3月間についての平均濃度は、各方位について計算された濃度の内最大のものを用いた。

以上により計算した ^{41}Ar 3月間平均濃度は、以下のとおりとなる。

平成30年	10月から12月	$1.7 \times 10^{-7} \text{ Bq/cm}^3$	スタックの西南西 (170m)
平成31年	1月から3月	$5.2 \times 10^{-8} \text{ Bq/cm}^3$	スタックの南西 (170m)

尚、KUCAについては、スタック気体状放出核種が検出限界未満であり、算定値はない。

近大原研発第2182号
平成30年10月29日

平成30年度上期 放射線管理等報告書

原子力規制委員会 殿

大阪府東大阪市小若江3丁目4番1号
学校法人 近畿大学
理事長 清水 由洋

核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律第67条第1項及び試験研究の用に供する原子炉等の設置、運転等に関する規則第18条第1項の規定により次のとおり報告します。

工場又は事業所	名 称	近畿大学原子力研究所
	所 在 地	大阪府東大阪市小若江3丁目4番1号
事務上の連絡先	名 称	近畿大学原子力研究所
	所 在 地	大阪府東大阪市小若江3丁目4番1号
	連絡員の氏名	

1. 放射性物質の濃度の3月間についての平均値及び最高値

(Bq/cm³)

測 定 の 箇 所		前半の3月間(平成30年4月～6月)		後半の3月間(平成30年7月～9月)	
		平 均 値	最 高 値	平 均 値	最 高 値
排気口又は 排気監視設備	排気口ガスβ*	検出限界以下	検出限界以下	検出限界以下	検出限界以下
排水口又は 排水監視設備	排水施設(採水法)	5.7×10 ⁻⁵	5.7×10 ⁻⁵	7.8×10 ⁻⁵	9.5×10 ⁻⁵

* 放射性物質濃度はバックグラウンドの平均値を差引いた正味の濃度

2. 放射線業務従事者の1年間の線量分布

1年間の線量 (mSv)	5 以下	5 を超え 15 以下	15 を超え 20 以下	20 を超え 25 以下	25 を超え 30 以下	50 を超え るもの	計
放射線業務 従事者数(人)							

3. 女子(妊娠不能と診断された者及び妊娠の意思のない旨を原子炉設置者に書面で申し出た者を除く。)の放射線業務従事者の3月間の線量分布(平成30年4月～9月)

3月間の線量 (mSv)		1 以下	1 を超え 2 以下	2 を超え 5 以下	5 を超え るもの	計
放射線業務 従事者数 (人)	前半の3月間 (平成30年4月～6月)	11	0	0	0	11
	後半の3月間 (平成30年7月～9月)	11	0	0	0	11

4. 原子炉の運転時間及び熱出力

[原子炉の名称: 近畿大学原子炉]

項目 月別	運 転 時 間 (h)	熱 出 力	
		平 均 (kW)	最 高 (kW)
平成30年 4 月	6.64	<0.001	0.001
5 月	65.90	<0.001	0.001
6 月	5.34	<0.001	0.001
7 月	0	—	—
8 月	0	—	—
9 月	0	—	—
合 計	77.88	<0.001	0.001

近大原研第2230号
平成31年4月25日

平成30年度下期 放射線管理等報告書

原子力規制委員会 殿

大阪府東大阪市小若江3丁目4番1号
学校法人 近畿大学
理事長 清水 由洋

核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律第67条第1項及び試験研究の用に供する
原子炉等の設置、運転等に関する規則第18条第1項の規定により次のとおり報告します。

工場又は事業所	名称	近畿大学原子力研究所
	所在地	大阪府東大阪市小若江3丁目4番1号
事務上の連絡先	名称	近畿大学原子力研究所
	所在地	大阪府東大阪市小若江3丁目4番1号
	連絡員の氏名	

1. 放射性物質の濃度の3月間についての平均値及び最高値

(Bq/cm³)

測定の箇所		前半の3月間(平成30年10月~12月)		後半の3月間(平成31年1月~3月)	
		平均値	最高値	平均値	最高値
排気口又は 排気監視設備	排気口ガスβ*	検出限界以下	検出限界以下	検出限界以下	検出限界以下
排水口又は 排水監視設備	排水施設(採水法)	—	—	—	—

* 放射性物質濃度はバックグラウンドの平均値を差引いた正味の濃度
— 排水なし

2. 放射線業務従事者の1年間の線量分布

1年間の線量 (mSv)	5以下	5を超え 15以下	15を超え 20以下	20を超え 25以下	25を超え 30以下	50を超え るもの	計
放射線業務 従事者数(人)	48	0	0	0	0	0	48

3. 女子(妊娠不能と診断された者及び妊娠の意思のない旨を原子炉設置者に書面で申し出た者を除く。)の放射線業務従事者の3月間の線量分布(平成30年10月~31年3月)

3月間の線量 (mSv)		1以下	1を超え 2以下	2を超え 5以下	5を超え るもの	計
放射線業務 従事者数 (人)	前半の3月間 (平成30年10月~12月)	11	0	0	0	11
	後半の3月間 (平成31年1月~3月)	11	0	0	0	11

4. 原子炉の運転時間及び熱出力

[原子炉の名称: 近畿大学原子炉]

項目 月別	運転時間(h)	熱出力	
		平均(kW)	最高(kW)
平成30年10月	0	—	—
11月	0	—	—
12月	0	—	—
平成31年1月	0	—	—
2月	0	—	—
3月	21.69	<0.001	0.001
合計	21.69	<0.001	0.001

様式第1 (第10条関係)

平成30年度上期放射線管理報告書

熊原第18-090号
平成30年10月29日

原子力規制委員会 殿

住所 東京都 2番4号
氏名 原子燃
代表取 健

核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律第67条第1項及び核燃料物質の加工の事業に関する規則第10条第1項の規定により次のとおり報告します。

工場又は事業所	名称	原子燃料工業株式会社 熊取事業所
	所在地	大阪府泉南郡熊取町朝代西一丁目 950 番地
事務上の連絡先	名称	原子燃料工業株式会社 熊取事業所
	所在地	大阪府泉南郡熊取町朝代西一丁目 950 番地 (072-452-7201)
	連絡員の氏名	所属部課名 (環境安全部)

1. 放射性物質の濃度の3月間についての平均値及び最高値

測定の箇所 (注1)		前半の3月間 (4月~6月)		後半の3月間 (7月~9月)	
		平均値	最高値 (注2)	平均値	最高値 (注2)
排 気 口 視 又 は 設 備	排気口 (1)	ND	ND	ND	ND
	排気口 (2)	ND	ND	ND	ND
排 水 口 視 又 は 設 備	排水口 (1)	ND	ND	ND	ND
	排水口 (2)	ND	ND	ND	ND

2. 放射線業務従事者の1年間の線量分布 (4月30日までに提出すべき報告書に限り記載すること。)

1年間の線量 (注3) (mSv)	5以下	5を超え 15以下	15を超え 20以下	20を超え 25以下	25を超え 50以下	50を超え るもの	計
放射線業務従事者数 (人)							-

3. 女子（妊娠不能と診断された者及び妊娠の意思のない旨を加工事業者に書面で申し出た者を除く。）
の放射線業務従事者の3月間の線量分布

3月間の線量（注3） （mSv）		1以下	1を超え 2以下	2を超え 5以下	5を超える もの	計
放射線業務 従事者数 （人）	前半の3月間 （4月～6月）	5	0	0	0	5
	後半の3月間 （7月～9月）	7	0	0	0	7

- 注1 保安規定に定められた箇所について、その箇所別に記載すること。
 2 保安規定に定められた期間についての平均濃度の3月間における最高値を記載すること。
 3 原子力規制委員会の定めるところにより記載すること。

- 備考1 この用紙の大きさは、日本工業規格A4とすること。
 2 氏名を記載し、押印することに代えて、署名することができる。

検出限界濃度 (ND)
(平成30年度上期)

	検出限界濃度
排気口 (1)	1.5×10^{-10} Bq/cm ³
排気口 (2)	1.5×10^{-10} Bq/cm ³
排水口 (1)	1.1×10^{-3} Bq/cm ³
排水口 (2)	1.1×10^{-3} Bq/cm ³

様式第1 (第10条関係)

平成30年度下期放射線管理報告書

熊原第19-023号
平成31年 4月25日

原子力規制委員会 殿

住所 神奈川県横浜市鶴見区鶴見中央四丁目33番5号
氏名 原子燃料工業株式会社
代表取締役社長 北川 健一

核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律第67条第1項及び核燃料物質の加工の事業に関する規則第10条第1項の規定により次のとおり報告します。

工場又は事業所	名称	原子燃料工業株式会社 熊取事業所
	所在地	大阪府泉南郡熊取町朝代西一丁目950番地
事務上の連絡先	名称	原子燃料工業株式会社 熊取事業所
	所在地	大阪府泉南郡熊取町朝代西一丁目950番地 (072-452-7201)
	連絡員の氏名	■■■■ 所属部課名 (環境安全部)

1. 放射性物質の濃度の3月間についての平均値及び最高値

測定の箇所 (注1)		前半の3月間 (10月~12月)		後半の3月間 (1月~3月)	
		平均値	最高値 (注2)	平均値	最高値 (注2)
排気口視又は設備排気備	排気口 (1)	ND	ND	ND	ND
	排気口 (2)	ND	ND	ND	ND
排水口視又は設備排水備	排水口 (1)	ND	ND	ND	ND
	排水口 (2)	ND	ND	-	-

2. 放射線業務従事者の1年間の線量分布 (4月30日までに提出すべき報告書に限り記載すること。)

1年間の線量 (注3) (mSv)	5以下	5を超え 15以下	15を超え 20以下	20を超え 25以下	25を超え 50以下	50を超え るもの	計
放射線業務従事者数 (人)	273	-	-	-	-	-	273

3. 女子（妊娠不能と診断された者及び妊娠の意思のない旨を加工事業者に書面で申し出た者を除く。）
の放射線業務従事者の3月間の線量分布

3月間の線量（注3） （mSv）		1以下	1を超え 2以下	2を超え 5以下	5を超える もの	計
放射線業務 従事者数 （人）	前半の3月間 （10月～12月）	8	0	0	0	8
	後半の3月間 （1月～3月）	7	0	0	0	7

- 注1 保安規定に定められた箇所について、その箇所別に記載すること。
 2 保安規定に定められた期間についての平均濃度の3月間における最高値を記載すること。
 3 原子力規制委員会の定めるところにより記載すること。

- 備考1 この用紙の大きさは、日本工業規格A4とすること。
 2 氏名を記載し、押印することに代えて、署名することができる。

検出限界濃度 (ND)
(平成30年度下期)

	検出限界濃度
排気口 (1)	1.5×10^{-10} Bq/cm ³
排気口 (2)	1.5×10^{-10} Bq/cm ³
排水口 (1)	1.1×10^{-3} Bq/cm ³
排水口 (2)	1.1×10^{-3} Bq/cm ³